

塚原古墳群(熊本市)

熊本平野の南端・浜戸川と支流が形成する塚原台地上に4~6世紀に営まれた古墳群で、方形周溝墓39基、円墳・小円墳34基、前方後円墳1基、石棺18基、石蓋土拡1基が発見されている(未調査のものを含めると全部で500基近くあるらしい)/九州自動車道建設工事の際に発見され、保存のため高速道路がすぐ真下を通過しており、塚原古墳公園して整備されている

塚原古墳公園 総合案内図

TSUKAWARA OLD TOMB PARK INFORMATION BOARD

塚原古墳公園は、史跡・塚原古墳群を保存し、多くの方々に利用いただけるよう整備した史跡公園です。公園の整備工事は、城南町が国や県の補助を受けて実施しました。

公園内には、全面に芝が張られ、復元された古墳や、内部観察のできる古墳、模型や説明板などが設置されています。

また、春には桜やツツジ・サツキが、梅雨時にはアジサイが、秋にはコスモスが咲きそろい、四季折々の花を楽しむことができます。

さらに県民天文台や大型遊具を設置した遊び場も設けられており、子供たちの学習の場として、家族の憩いの場として、古代をしのびながらご利用いただければ幸いです。



拡大図 ①



拡大図 ②



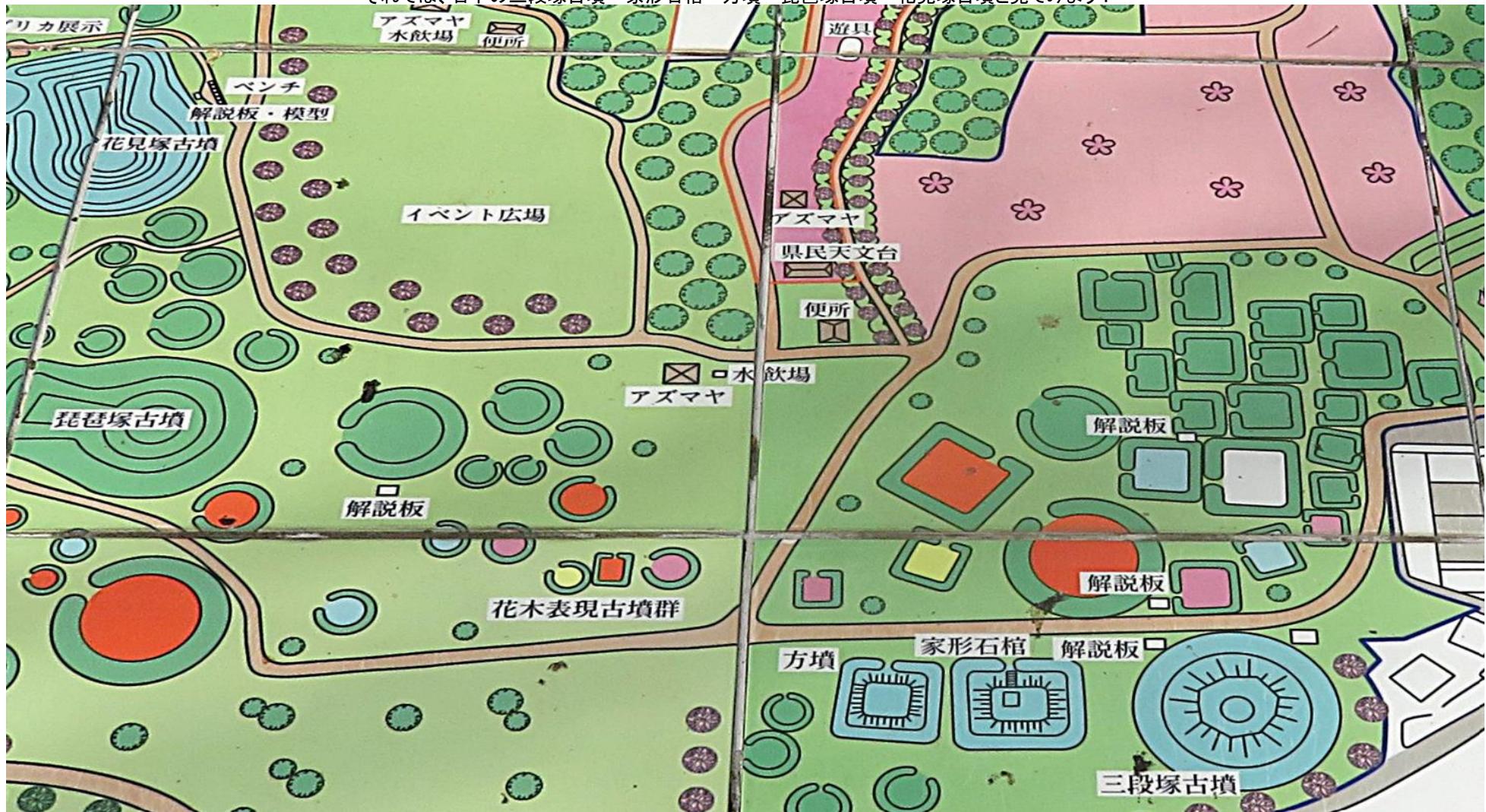
至豊野村

至御船IC

国道船町跨瀬線

至熊本・宇工

それでは、右下の三段塚古墳～家形石棺～方墳～琵琶塚古墳～花見塚古墳と見てみよう！



これが三段塚古墳/5世紀半ば築造の円墳

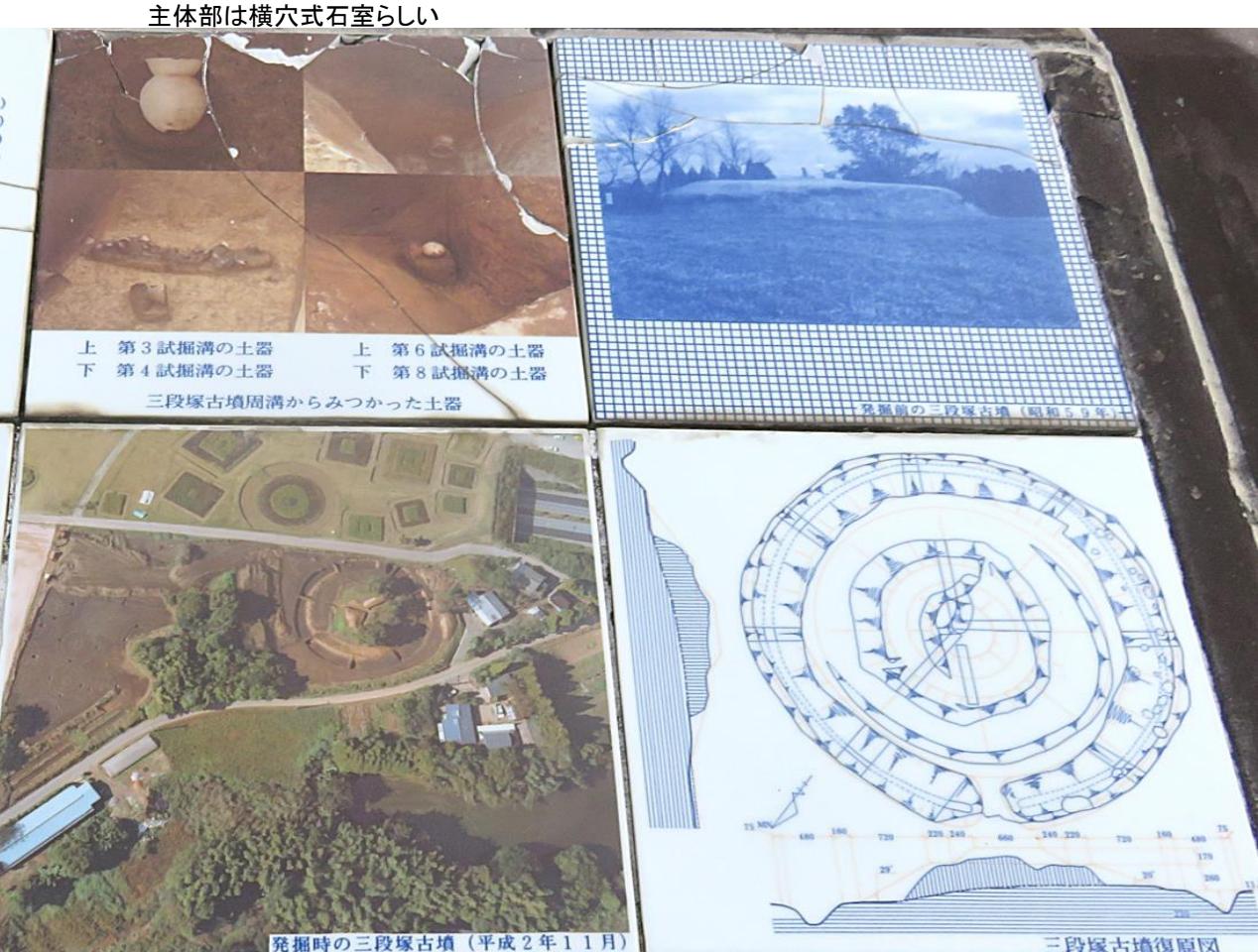
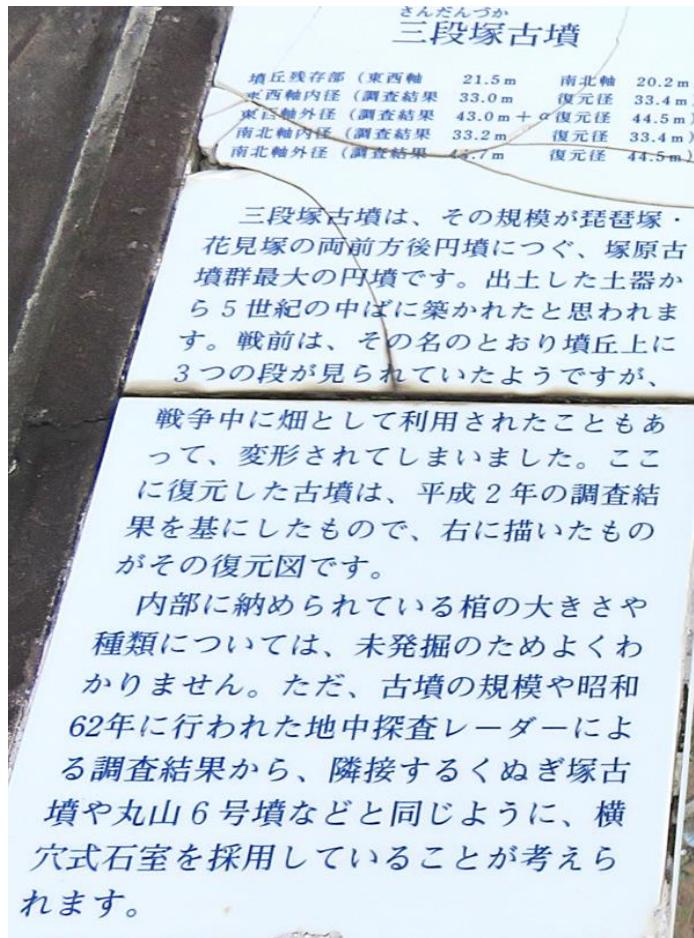
 [video](#)



説明板

 [video](#)





右手から見たところ

 [video](#)



直ぐ近くに別の説明板があった



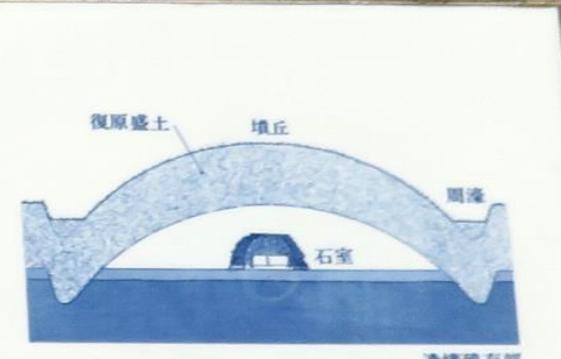
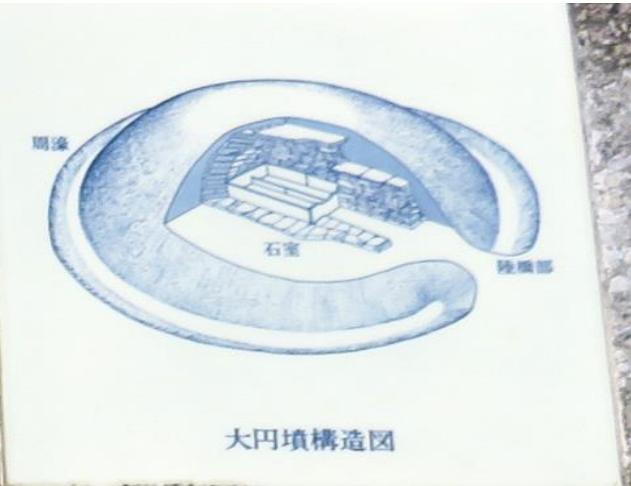
大円墳

方形周溝墓が最盛期を迎えた5世紀前半頃、くぬぎ塚古墳・三段塚古墳・丸山6号墳（将軍塚古墳）など、直径30mを超える大型の円墳が築かれました。

これらの古墳は、方形周溝墓の規模をはるかに超えた周濠や

墳丘をもっており、墓域には板石や川原石を使って造った死体安置のための石室がもうけられました。

遺物は、石室内から鉄剣や刀・よろい・やじり、銅鏡、勾玉・管玉など、周濠内から壺・かめ高壺を主とする土師器がみつかっています。



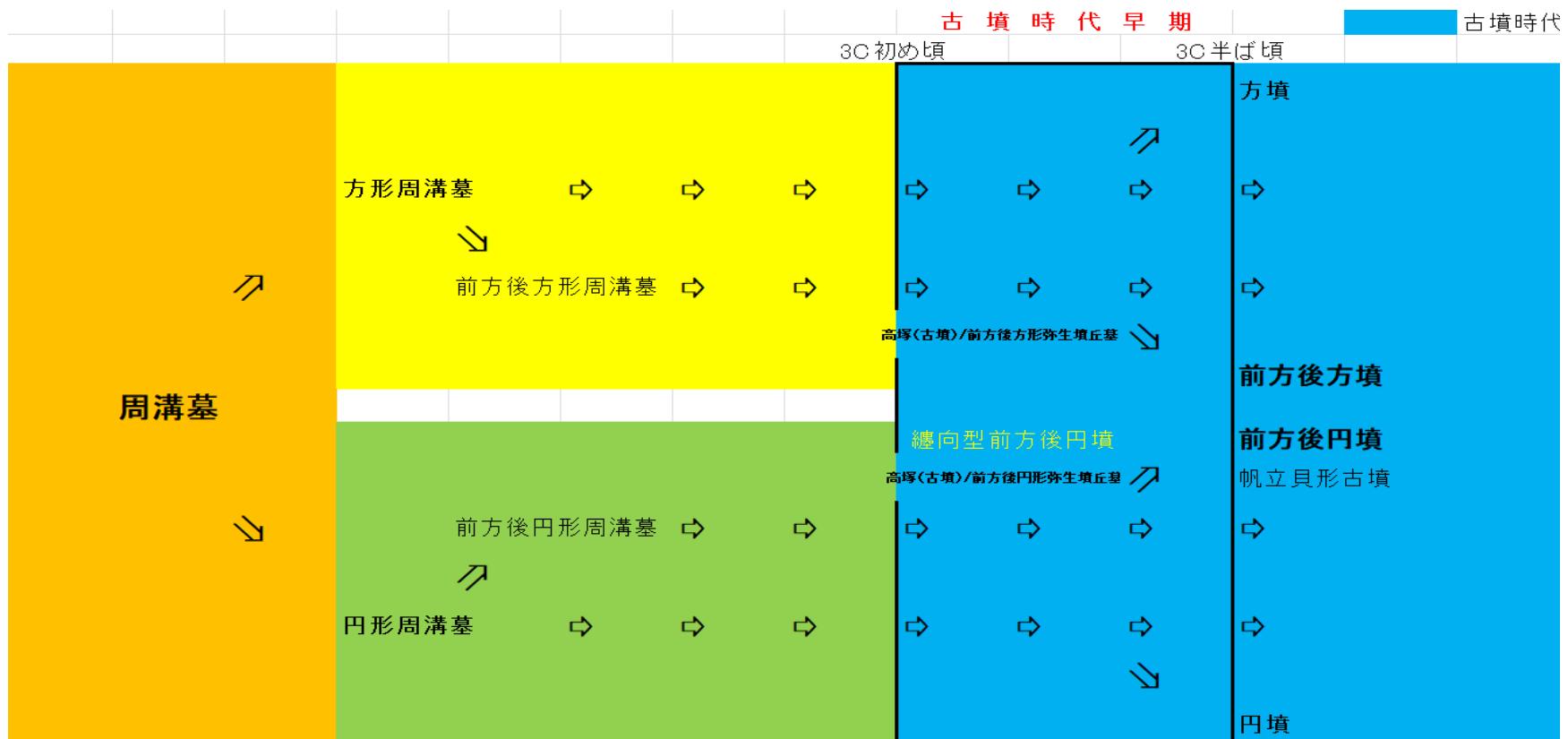
大円墳復原断面図

この植栽表示されている部分は4世紀後半から5世紀中頃にかけて築かれた方形周溝墓群



弥生時代の墓制である周溝墓が4世紀後半から5世紀中頃にかけて築かれているということは、古墳時代に入ってからも地域によっては綿々と弥生時代の墓制を引きずっているということを物語っている

下図は周溝墓から画期を経て、様々な古墳が築造されていくプロセスを図式化した試案/古墳時代にも周溝墓が築造されていた！



※ 弥生時代中期以降に出現し、日本海沿岸に波及した「四隅突出型墳丘墓」も高塚であり、古墳と呼んで良いと思われるが、「纏向型前方後円墳」のように倭国全体に波及してはいないということから、その時点はまだ弥生時代という括りになろうかと思われる（なお、「高塚」とは高い墳丘墓=古墳のこととし、それまでの低い弥生墳丘墓とは一線を画するとした表現とお考え下さい！）

これは三段塚古墳の隣の家形石棺が出土した丸山2号墳/5世紀中頃築造の方墳



墳頂に覆屋が見える

 [video](#)



周濠の土橋を渡って墳頂に登る階段がある



そこで、左手を見たところ/左前方は三段塚古墳



同じく、右手を見たところ/右前方は丸山20号墳

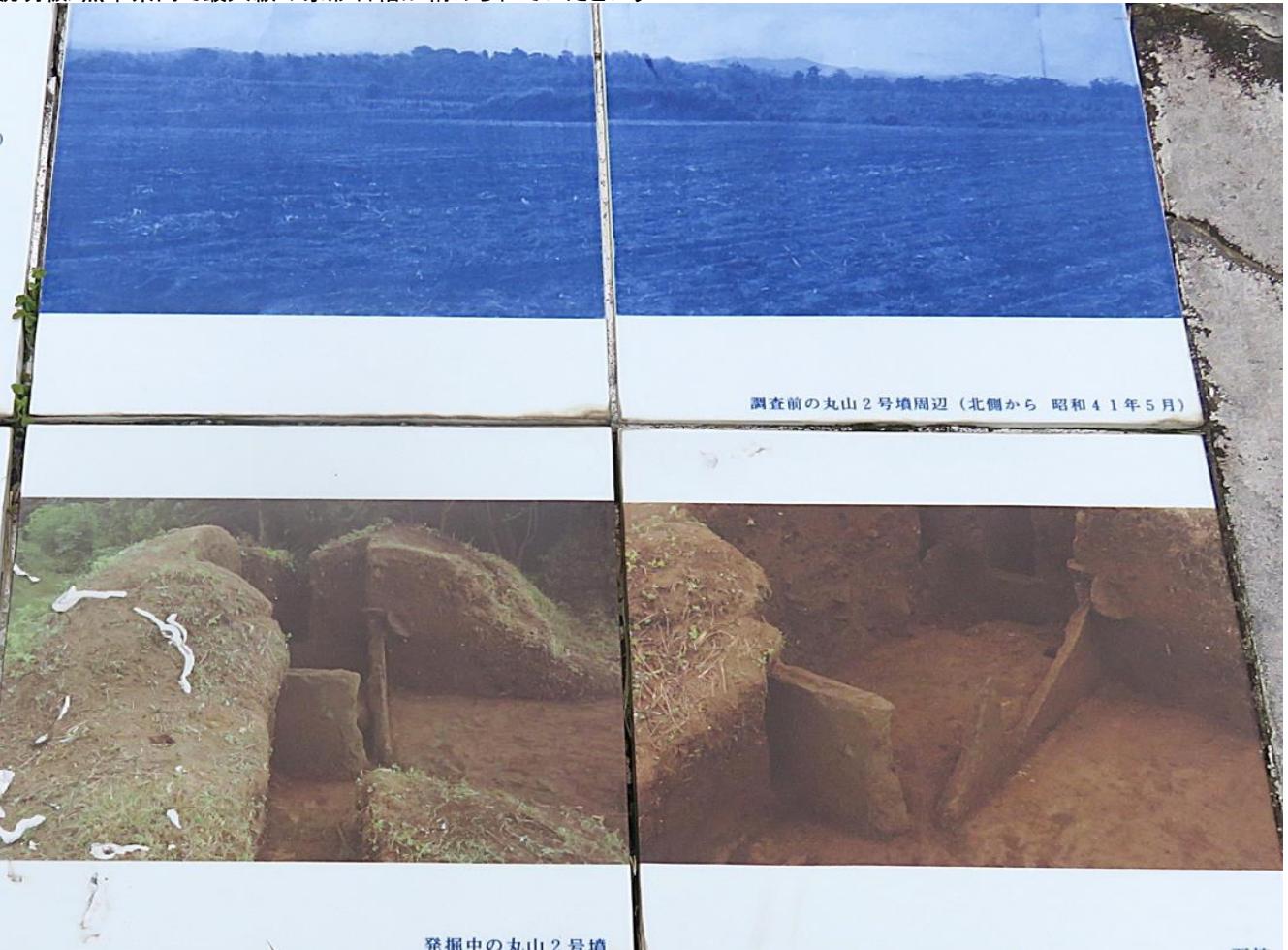
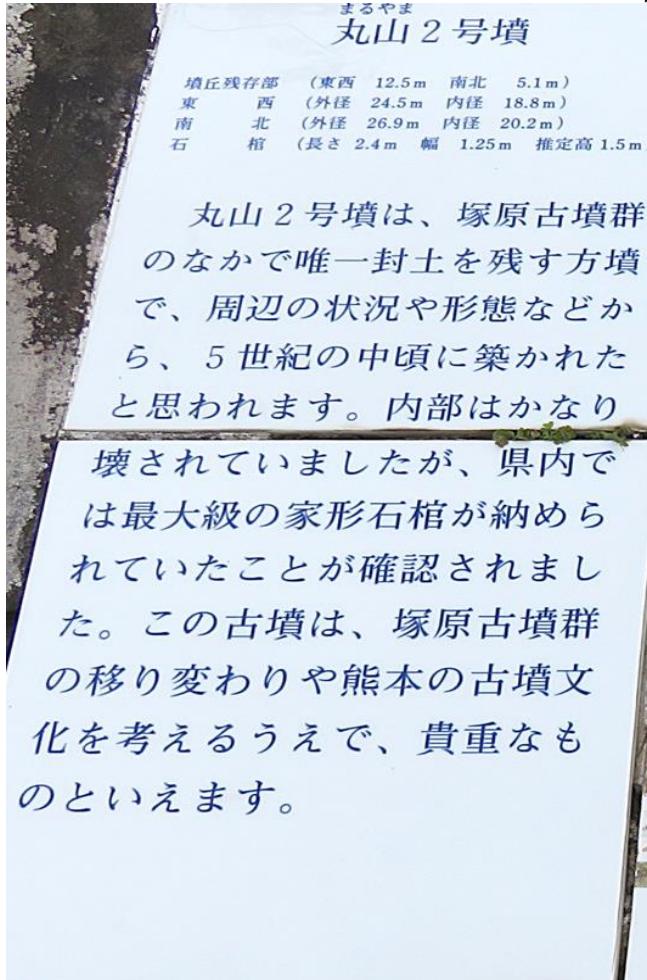


墳頂に登るとガラスが嵌められた覆屋があった/前方は三段塚古墳

[video](#)



説明板/熊本県内で最大級の家形石棺が納められていたという



カラス窓の中を覗いて見たが、霞んでいてはっきり見えなかった



これが丸山2号墳の隣の丸山20号墳/5世紀後半から6世紀前半にかけて、方形周溝墓に替わって築かれた、中でも大きな円墳の一つ

 [video](#)



右手から見たところ/周濠を渡る土橋がある



そこで、左手を見たところ/前方に丸山2号墳、その背後に三段塚古墳が見える

 [video](#)



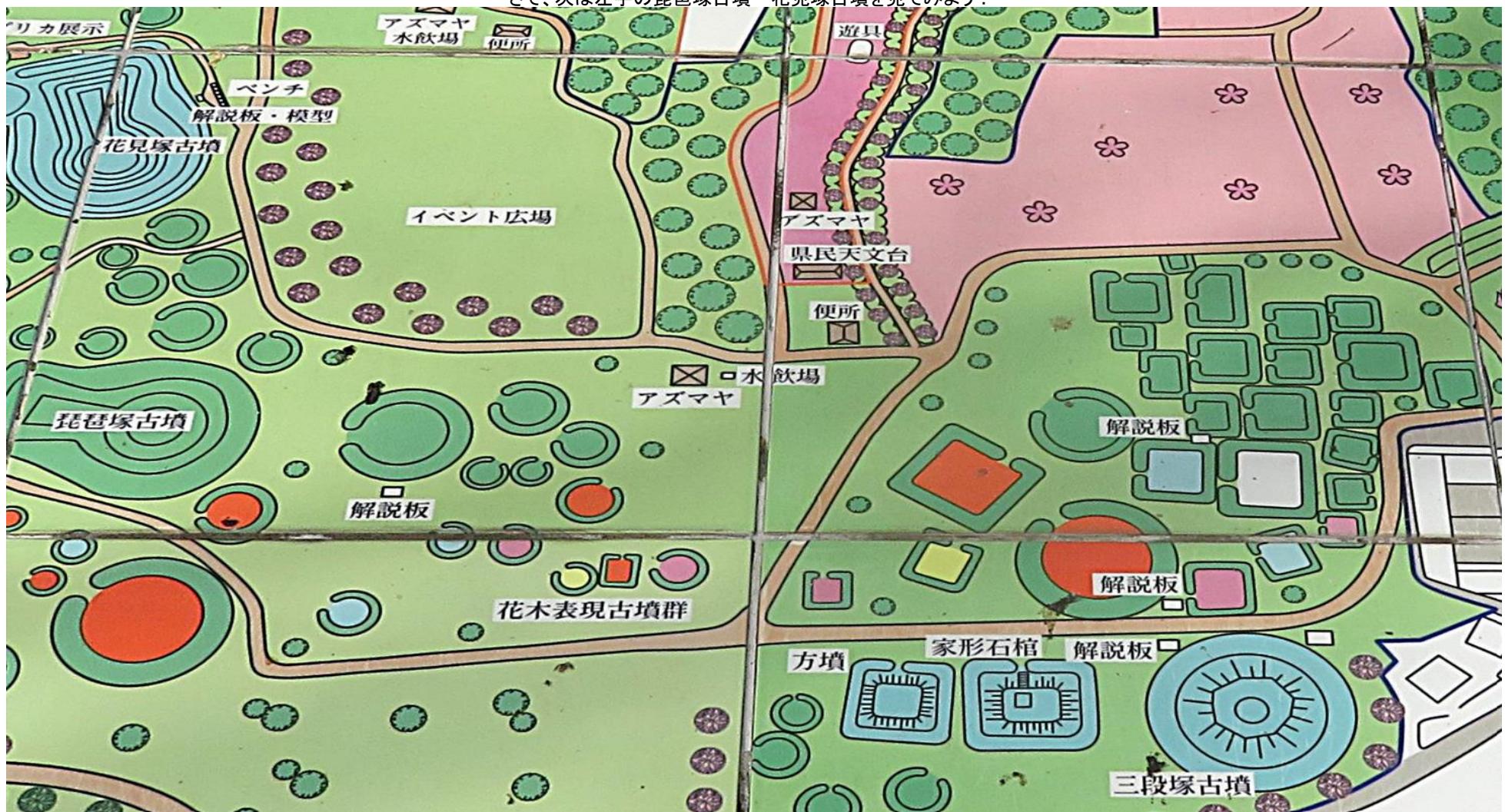
同じく、右手を見たところ/小円墳群が見える



小円墳群/5世紀後半から6世紀前半にかけて、方形周溝墓に替わって築かれた



さて、次は左手の琵琶塚古墳～花見塚古墳を見てみよう！



そのエリアに「国指定史跡 塚原古墳群」と刻まれた標柱が立っていた



これが琵琶塚古墳/5世紀末頃築造の前方後円墳/左手前が前方部、右奥は後円部

 [video](#)



前方部の後ろから後円部方向を見たところ

 [video](#)



こちらは花見塚古墳/6世紀末頃築造の前方後円墳/左手が前方部、右手は後円部/周濠が二重に巡っている

 [video](#)



後円部の後ろの、二重の外の周濠



振り返って前方部方向に、二重の外の周濠を見たところ/右手に二重の内の周濠が巡っている

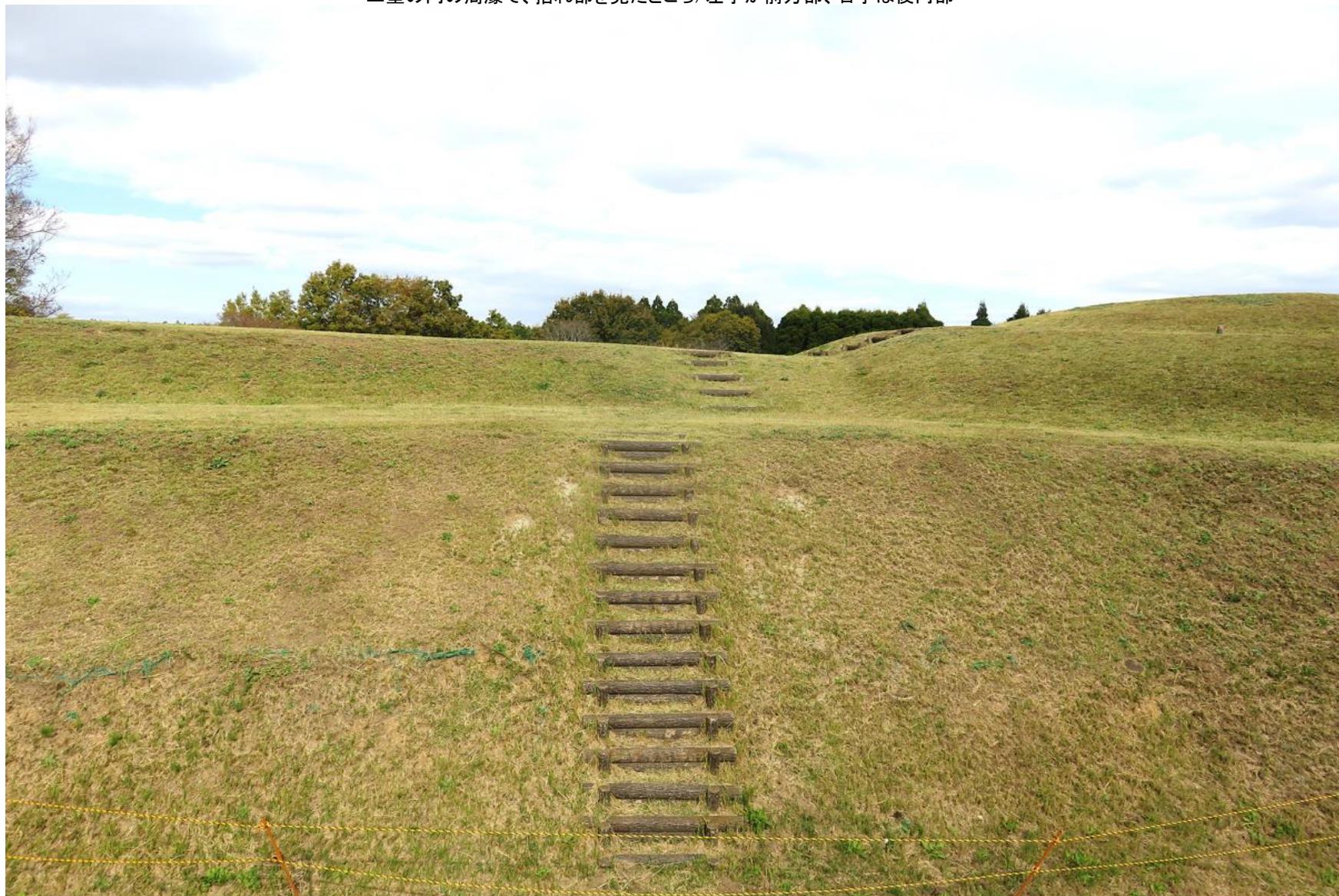


その先の二重の外の周濠で、後円部から前方部方向を見たところ

[video](#)



二重の内の周濠で、括れ部を見たところ/左手が前方部、右手は後円部



左手の前方部を見たところ



同じく、右手の後円部を見たところ/後円部は二段築成

 [video](#)



墳頂に登って、括れ部で前方部を見たところ

 [video](#)



振り返って後円部を見たところ



後円部墳頂で、前方部方向を見たところ/二重の周濠が見て取れる

[\[動画\]](#) video



そこで、左手を見たところ/左前方に周濠を共有する円墳がある



同じく、右手を見たところ/こちらにも正面前方に周濠を共有する円墳が見える



さて、こちらは併設されている熊本市塚原歴史民俗資料館



周辺には様々な展示物があった





収穫を祝う

農夫の埴輪 群馬県オクマン山古墳出土(7世紀)

古代の祭り

大きな髪の女性埴輪
栃木県牛堀古墳出土(6世紀)

古くは樹木や岩を神靈のよりつく依り代と考えて、その前で祭りが行われていました。この石像群は、おおよそ1、500年ほど前、神木の前で舞いを奉納し、収穫を祝う祭りを行っている場面です。

全体の雰囲気は、「年中行事絵巻」に見える里神樂や『古事記』のアメノウズメノミコトの舞いの記述などにもとづいて作り上げました。

「天宇受命天孫、天の香山の天の日影を手次に繋けて、天の真柄を継と為て、天の香山の小竹葉を手草に結いて……」

(『古事記』から)

沖縄県久高島のイザイホー

舞う巫女を軸に、横笛・太鼓・鼓で囃す囃子、それらを見守る豪族・婦人・若者・長老・警護の武人からなっています。

ただし、資料館前の展示なので、武器や武具を多くしました。

楽器は、神樂など日本の祭りで一般的な横笛と太鼓にしました。その形態や演奏法は、埴輪・古代の絵巻物・奄美の八月踊り・関東の三匹獅子舞などを参考にしました。

衣服・髪形・装身具・武器・馬具などは埴輪・古墳出土品・古墳の壁画・南西諸島や本土の祭り装束などにもとづいています。

「年中行事絵巻」平安時代

古代では、鶏は時を告げたり、祭祀の為に飼養されていました。神様に馬を奉納することも古くから行われており、収穫後に山に帰る神様の乗り物とする地域もあります。鶏や馬は古い形質を残すものとして、熊本県指定の久連子鶏と鹿児島県指定のトカラ馬を参考にしました。

太鼓を打つ男性埴輪
群馬県境町出土(7~8世紀)

あごひげのある男性埴輪 正装した女性埴輪
千葉県姫塚古墳出土(7世紀) 群馬県伊勢崎市出土(7世紀)

短甲 復原模造

方頭大刀

群馬県藤岡町古墳出土

環頭大刀

静岡県船津古墳出土

挂甲 復原模造

騎馬人物像(高句麗・舞踏塗壁画)

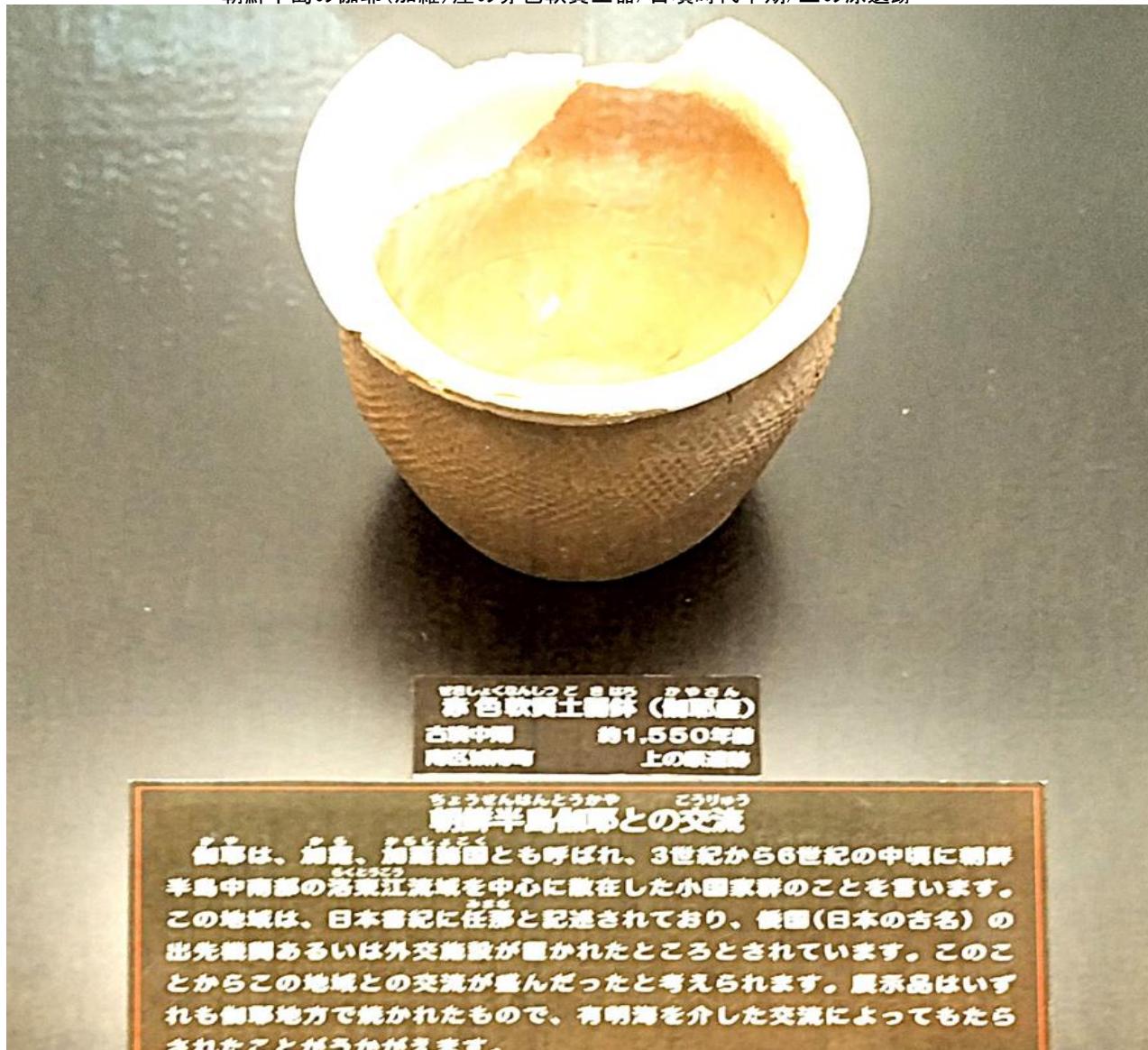


館内も宇城地方の考古資料が盛り沢山

 [video](#)



朝鮮半島の伽耶(加羅)産の赤色軟質土器/古墳時代中期/上の原遺跡



同じく、塚原古墳から出土した陶質土器高环



